

生活科 「公園に路線バスで行こう」の構想と実践

前アブダビ日本人学校 教諭

静岡県静岡市立宮竹小学校 教諭 小柳 正史

キーワード：在外教育施設、アブダビ、生活科、校外活動

1. はじめに

生活科においては、自分の身近な地域の様々な場所、公共物などに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができるようにするとともに、社会の一員として行動の仕方を考え、安全に適切な行動ができるようにすることをねらいとしている。地域、社会とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を目指し、校外の活動を積極的に取り入れることが配慮事項となっているが、ここアブダビでは難しい面があった。その理由として、高温多湿の気候により、一年の大部分が屋外での活動は生命の危険にかかわることが一番の理由である。学校バスの利用では行動範囲と時間が制限されること、また適切な活動の場所がないか、構想する機会がなかったこともあげられる。

そこで研修担当、国際交流ディレクターと相談し、「カリファ・パーク」「路線バス」という2つの公共施設を軸に、単元として実現可能かを検討、実践し、ねらいにせまることを試みた。

2. アブダビの公共施設の調査

(1) カリファ・パーク

カリファ・パーク (Khalifa Park) は、アブダビ日本人学校より東約4キロメートル、Al Bateen Airportの北側にある公園である。公園としては、アブダビの中でもかなり大きい公園である。遊具が多数あり、伸び伸びと遊べることに加え、「列車」および「ライド式博物館」があることが特徴としてあげられる。

「列車」は、一回の乗車に2DHSの料金で、推定外周2000mの線路を一周することができる。鉄道がないアブダビでは、おそらく「最長の鉄道」と思われる。5両編成で、およそ150人が乗車可能である。

「ライド式博物館」は、室内施設である。5人乗りのつり下げ式電動遊具に乗り、英語あるいはアラビア語の解説を聞きながら、アブダビの歴史、現在をめぐることができる施設である。所要時間は5分程度であるが、昔の生活、砂漠の様子、学校の様子、石油採取の現場、今のアブダビの様子に至るまで、コンパクトにめぐることができる。また小さいながらも水族館を併設しており、各種魚を間近に見ることができる。この博物館は、一回につき3DHSの料金がかかる。

入場料は10歳以上が1DHSである。通常の営業時間は平日15時から22時(木曜23時)、金曜および祭日は11時から22時である。この時間では学校として利用できないと思われたが、国際交流ディレクターの事前調査から、「学校開放」の制度があり、月曜・水曜がその日に当たることがわかった。連絡を取っていただき、手続きをするということになる。

(2) アブダビ路線バス

現在のような路線バス体系は、2008年より開始されている。日本人学校の最寄りのバス停は、4番通りの「Al Zahra」である。ここには4系統のバスが止まり、おおよそ「市街地⇄郊外」という構図になっている。今回取り上げる「56番」は、「ミナ港、カリファ・パーク線」にあたるもので、日中は20分間隔で運行しているとされている。

事前の実地踏査時は、「Al Zahra」から「カリファ・パーク」まで、往路約20分、復路約25分で運行されていた。

往路は下車客10名以下、復路は乗車客のみで次第に込み合ってきたが、立っている乗客はいなかった。4番からすぐに空港を回りこむように住宅街等、比較的狭い道を通り、停留所は10ほどである。パンプスによる振動はあるが、速度はそれほど速くない。

バスは前方の女性席が12、後方の一般席が20、合計32である。今回1・2年生は、児童生徒19名、引率教諭6名で考えると、復路は始発なので大丈夫だが、往路に全員が着席できるかは状況によるだろう。ただし、2人がけに3人座るとする方法をとることもできるし、手すりを利用してよい。また、概して乗客であるアブダビの人々は子どもに優しく、席を譲ってくださるパターンが考えられ、ここで「みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナー」に気づくよい機会と考えられる。バスの料金は大人1DHS、子どもは無料で、前方の料金箱に入れる仕組みとなっており、「前払い制、前乗り後ろ降り」である。10歳以下、大人1名につき子ども2名まで無料となっているので、運転手によって料金が左右されることも考えられるものの、子どもに往復分2DHS用意させておいたほうがよいと考える。

3. 単元構想の概略

これまでの生活科の関連する学習として、「学校の周りたんけん」「ヘリテージビレッジ見学」「砂漠遠足」があげられる。見学の目的、注意事項をつかみ、班編成をして、班で相談しながら活動し、個人でまとめる、という流れにより学習をしている。子どもたちで考え行動する機会を大切に、安全な範囲でグループ活動を取り入れてきた。

「ヘリテージビレッジ見学」では、4つの班ごとに施設内を見て周った。施設についてのガイダンスがほとんどできなかったにも関わらず、引率教員が4人以上いるという環境もあり、班で相談をしながら、それぞれが思い思いに施設を回ることができた。その中でも、ナショナル児童(UAE国民児童。日本の教育課程に基づくアブダビ日本人学校において、日本の文化・伝統及び自励心、勤勉、指導力の観念を含んだ勉学の機会を与えることを目的とし、2010年度は4名の児童が在籍していた。)を4つの班に一人ずつ配置したことにより、お店に入る時にナショナル児童が声をかけたり、かんたんに周りの子どもに説明したりするなど、その子なりのよさ、本校のよさが表れていた。

そのことを受け、今回の単元でもグループ行動を基本とした。現状では引率教員が4名以上可能で、各グループに教員がつくことで安全面でも問題ない。また、時計を持参させることにより時間を決めて公園内自由行動も少し取り入れたい。ライド式博物館の移動遊具は、1台ごと説明音声のアラビア語または英語で選択ができる。説明が分からなくても充分楽しめることもあり、可能な範囲でナショナル児童に活躍してほしいと考えた。

単元は全7時間構成で、従来の年間計画の「あきをさがしにいこう」の時間とする。流れとして、①活動ガイダンス ②組織作り(班編成) ③班での計画(バスの乗り方・公園でのすごし方を含む) ④⑤⑥公園に行こう ⑦振り返りとした。さらに、具体的な見学日程として、2時間目終了後出発、バス停で「56番」のバスに乗る(ただし、バスの出発時間は運に左右される)。カリファ・パーク到着後、まず列車に乗って移動、ライド式博物館を見学し昼食、遊具スペースで楽しんだ後に、バスで帰路につく、という基本ラインを設定した。ただしこれについては、公園事務局の受け入れ時間、運営方法に左右され、当日の変更もありえるだろうという柔軟な体制が必要と思われた。なお、こういった活動時に必要な持ち物を持参させるとともに、個人での経費は7DHS(バスで2DHS、列車2DHS、博物館3DHS)とした。

4. 単元実践の経過

職員研修及び職員会議での検討を経て、見学日を2010年12月15日2～4時間目と設定し、事前学習の時間を4時間設定した。最初の活動ガイダンスの授業では、下見写真によるスライドショーによって、路線バス及びカリファ・パークについて、その概要を確認し、活動を行ううえでの問題になる点を挙げさせた。そこで、「路線バス」「カリファ・パーク」の2点に焦点化することができた。班編成については、問題はないと判断し、この2点について学

習を深めることを試みた。

まず、バス利用についてである。これまでの校外学習では、徒歩あるいは学校バスでの利用だったために、「路線バスで行く」という教師の提案に、子どもは驚きと興奮、期待と不安を隠せないようであった。路線バスが緑色であることから、子どもたちは「グリーンバス」と呼んでいた。このグリーンバスを利用したことのある子どもは、全体の3割ほどであった。バス停の写真を提示し、アラビア語や英語を、ナショナル児童や保護者の国籍が英語圏の児童などが解説し、学校の近くにバス停があること、そこから「56番」のバスに乗ることによって、カリファ・パークに行けることがわかった。たくさんの人が利用するためバス番号・バス停表示の工夫は、子どもたちにとって大きな発見となった。この日の学習の後、次の日が連休だったこともあり、「自宅の近く、あるいは買い物などで外出した時に、グリーンバスを見よう」という宿題を出したところ、次時、「56番を見たよ」「他にもいろんな番号がある」と、さまざまな発見をした子どもたちがいた。バス運賃についても、利用した子どもはお金を払ったことがなく、議論が交わされた。バスの運転手による対応の違いも考えられるが、このような子どもの団体で利用するケースは特異なケースであり、一応片道につき1DHS（往復2DHS）用意しておくという指導をした。

また、カリファ・パークについては、全体の2割の児童が、行ったことがある経験をもっていた。しかし低学年だけあって、あいまいなものも多い。これについてもバス同様、看板の写真等を提示することによって、必要な金額を用意することとなった。授業と並行して、公園学校開放の制度申請を、国際交流ディレクター、渉外担当の先生に行なっていただいた。

当日は、安全に留意し無事に引率することができた。バス停に到着すると、子どもたちは表示を確認し、「56番」を待っていた。他の番号が来ると残念そうにしており、バスが来ると歓声があがった。バスの中でもほどよく座ることができ、周りの乗客、運転手とも、好意的な対応をしてくれた。

カリファ・パークでは、私たちの予約が無事に認められていたばかりでなく、学校開放の場合のモデルコースが設定されており、それがこちらで考えていたコースとほぼ同様で、スムーズに体験することができた。入園料は無料であったが、列車運賃、博物館入園料が必要であり、一人ずつ5DHS支払い、チケットを手にするという体験をすることができた。我々の学校だけの利用だったこともあり、列車に乗り、ライド式博物館を班ごと体験し、水族館を見学したあと、昼食を取った。昼食後、また列車に乗り、遊具スペースで遊び、公園を後にして、バスで帰校した。

ふりかえり学習では、絵や文で自分の思い出を記述した。

カリファ・パークで列車に乗ったこと、ライド式博物館、水族館、遊具施設で仲間とともに体験し、楽しんだことを、その子なりに生きいきとまとめることができた。



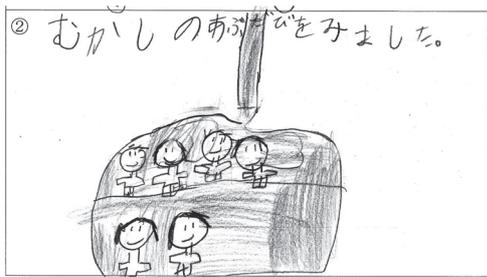
① 児童のふりかえりプリント



ライド式博物館を見学する児童

5. おわりに

本単元の目標である、自分の身近な地域の様々な場所、公共物などに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができたかどうかを検証したい。アブダビの街中には、地域のためにつくられているものは多い。単元を通して、「路線バス」「公園」といった公共物に関心を持つことができたように思う。近年のバス路線整備によって、



②、③ ナショナル児童のふりかえりプリント

市民生活が便利になっただけでなく、今後の道路事情の変化が期待できる。また、雨がほとんど降らないアブダビにおいて、これだけの公園があり、木々があるということは、素晴らしいことである。生活科でそこまで深めることができないが、その出発点にはなったと思う。

「バスをさがしてこよう」という宿題において、関心を持ってバスを見てきた子もいるが、連休中で外出する機会も多いにもかかわらず、「バスが見つからなかった」という子も何人かいた。自分の身近にある公共の施設に注目し、その特徴や良さを知ろうとすることは、社会科の学習にもつながる大切な力である。しかしはじめに述べたように行動範囲と時間が制限された中では、目を向ける手段も機会に限りがある。今回の学習のような「気づき」の機会を大切に、「学び」へと高めていけることが、今後の課題と考えられる。

今回の単元構想では、「公園の利用」「路線バスの利用」を提案し、実践した。カリファ・パークの学校開放による利用は、こちらの構想に近い一つのモデルプランが存在し、非常にスムーズに利用できることが、この実践で明らかになった。博物館利用など、今後社会科見学あるいは特別活動としての学校利用も考えていける、有効な施設であることが確認された。

また路線バス利用については、これまでの学校バスでの利用でも最大2～4時間目にあたる時間を利用できるため、今回構想した3～5時間目での計画と比べ、さほど可能となる時間は変わらず、かえて昼食時間が必要となること、また路線バスの発車時間が一定でないことから、今回のように路線バスの利用自体に価値を見出すのであれば、思ったほど良いものではないことが分かった。とはいえ、今回取り上げた施設、路線の他にも、スーパー「カルフル」、ザイドスポーツセンター、ザイドグランドモスクといった方面へは複数系統のバスが走り、ほどほどの時間で行くことができる。今後、路線バスの利用を積極的に検討し、その可能性を探っていけるだろう。

この実践の中でアラブ首長国連邦、アブダビという地域への思いを、「自分の地域」としての思いへと高めていくことが、自分と周りとのつながりを深めることに結びつくのではという助言をいただいた。少しずつの思いを、少しずつ積み重ねていくことの大切さを、私自身も学ぶことができ、周りとのつながりを深めることができたように思う。教えていただき、支えてくださった方々に感謝したい。